2027

国際関係学部
国際専門演習 A・B
講義要綱

2026 年 11 月 3 日 (火)

13:35～

会場:5511 講義室



目次

「2027 年度　国際専門演習 A･B」履修登録について 3

伊藤　正晃 6

20 号館 8 階　伊藤研究室 6

伊藤　裕子 7

20 号館 12 階　伊藤研究室 7

岩間　優希 8

20 号館 8 階　岩間研究室 8

于　小薇 9

20 号館 10 階　于研究室 9

加々美　康彦 10

20 号館 7 階　加々美研究室 10

高　英求 11

20 号館 7 階　高研究室 11

澁谷　鎮明 12

20 号館 7 階　澁谷研究室 12

宗　ティンティン 13

20 号館 8 階　宗研究室 13

財部　香枝 14

20 号館 9 階　財部研究室 14

中野　智章 15

20 号館 7 階　中野研究室 15

中山　紀子 16

20 号館 12 階　中山研究室 16

羽後　静子 17
20 号館 7 階　羽後研究室 17
平井　芽阿里 18
20 号館 7 階　平井研究室 18
ニコラス　ペーテルス 19
20 号館 5 階　ペーテルス研究室 19
羅　立新 20
20 号館 12 階　羅研究室 20
和田　知久 21
20 号館 7 階　和田研究室 21
国際専門演習 A･B 担当教員の研究室 22

面談日程表

ゼミ希望票

国際学科

「2027 年度　国際専門演習 A･B」履修登録について

1．スケジュール・手続き

（1）履修ガイダンス　　：2026 年 11 月 3 日(火) 13:35～15:05
会場 5511 教室【全員参加・時間厳守】

（2）教員との面談・選考　　：2026 年 11 月 9 日(月)～12 月 4 日(金) 15:00 まで
内定の解禁日は 11 月 23 日(月)

（3）ゼミ希望票提出締め切り：2026 年 12 月 4 日(金) 16：00 まで
20 号館 3 階 国際関係学部事務室まで【時間厳守】

（4）ゼミの決定　　：2027 年 1 月中旬　キャンパスプラザに掲示
学部 HP（学生ポータル）に掲載



2．登録にあたって

（1）国際専門演習 A･B の重要性

いわゆるゼミ（国際専門演習 A･B）とこれにつながる卒業研究は、大学における学びを「卒業論文」等の形で総括する極めて重要な科目です。卒業研究の関心領域・テーマはもとより、将来の就職・進学などについてもよく考慮して、希望を出してください。

（2）教員との面談における注意事項

1)　本講義要綱に記載されている各教員の面談日程表を見て、指導を希望する演習担当教員に予約を取り、個別に訪れて面談を受けてください。教員によっては「対面方式」以外に、「オンライン方式」で面接をおこなう場合があります。「オンライン方式」での面接を希望する人は教員に伝えてみてください。

2)　面談日程表の日時以外にも、教員はみなさんの面談を積極的に受け入れます。教員に直接メールして面談予約をとるなど、自分で積極的に研究室を訪ねてください。追加の面談可能日時や面談の進行状況について、研究室の扉に掲示する教員もいるので、希望する教員の研究室を随時訪問することを勧めます。

3)　少人数教育を徹底するため、各ゼミの受入れ人数の上限は 10 名を目安（受け入れ義務は 10 名）とします。したがって、必ずしも第 1 希望のゼミに入れるとは限りません。（10 名までは、教員は必ず希望者を受け入れます。10 名を越えたら募集を停止することがあります）。

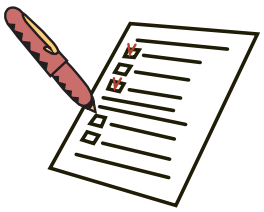
4)　選考期間中に内定を出す教員もいます。したがって、選考期間終了前に定員が埋まって募集停止になるゼミもあります。希望するゼミに入りたいのであれば、早めに動き出すことをお勧めします。ただし、内定の解禁は 11 月 23 日（月）以降です。なお、1 回目の面談で教員が内定を出すことはありません。必ず **3 人以上の教員**と面談して、希望ゼミの教員に第一希望であることを伝えてください。内定が出るかもしれません（内定を出すか否か、いつ出すかなどは、教員によって異なります）。

5)　教員との面談の前に、大学 Web サイトの教員情報などで、各教員の研究・教育の専門分野などをチェックしましょう。

6)　積極的にゼミ見学を行なうことを奨励します。ゼミ担当教員に希望を申し出てください。ただし授業の都合により、不可能な場合もありますので、ご注意ください。

7)　教員に志望をかなえてもらうには、ゼミ希望票に熱意をこめて記入することや、面談時にポートフォリオ（シート＆ファイル）を提示することも有効な行動です。

3．連絡先



国際専門演習 A･B 履修や面談に関する相談は、

〇国 際 学 科 主 任　　和田　知久 先生（20 号館 7 階）

国際学科主任補佐　　羅　立新　　先生（20 号館 12 階）

国際学科主任補佐　　宗　ティンティン 先生（20 号館 8 階）

〇国際関係学部事務室（20 号館 3 階　9:00～17：00）

ゼミ選考の流れ

まず、3 人以上の教員と面談（必須）

（「ゼミ希望票」に面談日と教員名を、対面なら教員が、オンラインなら学生が記入）

第一希望のゼミが（自分の中で）決まった？

YES

NO

そのゼミの教員に、第一希望であることを伝える。

内定がもらえた？（11 月 23 日以降）

YES

NO

ゼミ決定

教員に、「ゼミ希望票」にサインをもらう

活動を続ける



「内定」をもらえないまま、選考期間が終了したら、

「ゼミ希望票」に第 1~第 10 希望を書く

（定員充足で募集停止のゼミ名は書かない）

（これを書かなかったら、まったく希望しないゼミに配属される可能性がある）

国際関係学部事務室に、「ゼミ希望票」を提出

ゼミ配属の決定・発表（1 月中旬以降）

伊藤　正晃

20 号館 8 階　伊藤研究室

テーマ:己を知り、世界とのつながりを識る（言語・音楽を中心に）

【授業の趣旨】

4年時の卒業研究の執筆に必要なテーマ設定、先行研究の検索方法を指導し、論文の作成を指導します。本ゼミのテーマである「己を知る」ことを常に意識し、そして「世界のつながり」にあるように、自分が世の中の何に関わっているのか、どのように役に立つのかを考えていきます。さらに、音楽との関わりなどは学生と一緒に討論していきたいと考えています。伊藤の研究に関するキーワードは「音声学（音響音声学・調音音声学）、言語学、語源学（語史）、中国語、ヴェトナム語」で、それに付随するキーワードとしては「複言語主義、国歌、民族音楽、作曲学、コード学、器楽演奏、多文化共生、地域共生」を挙げます。

【授業計画】

3年次春学期はグループワークや簡単な課題を出して、発表/発信（アウトプット）する姿勢を身につけてもらいます。そのために、まずレジュメとパワーポイントの作成指導をおこないます。その取り組みを重ねながら、自分の書きたい論文のテーマを見つけていきます。秋学期では、論文のテーマを発表してもらい、それに関連するキーワードをゼミ内で議論します。テーマが固まった頃に、Word での長い文章の作成方法について指導します。

伊藤マサゼミ生では、卒業研究の対象が「オノマトペ（擬声語・擬態語）」「疑問詞」「ビートルズ」「邦ロック」「部活動（野球）」「文字解読」「ディズニー」などの言語と音楽の二本柱が主となっています。

母語でない言語に触れたとき、必ず「なぜ?」が生まれます。母語との比較をおこない、「なぜ?」を追究します。このように「言語」について取り扱います。また、外国語を身近に感じてもらえるように、ゼミ内で言語に関するカードゲームを作成します。その成果として、オープンキャンパスなどで披露していきたいと考えています。「音楽」の取り扱いについては、授業で簡単な作曲学とコード学を指導します。楽器を演奏することはありませんが、音楽がどのように社会とつながっているか/影響しているのかを追究します。その他の分野は各学生の主体性に任せ、授業では取り扱うことはしませんが、場合によってはクラスで議論をすることもあります。この他に、3つ目の柱として「活動」を推進します。地域のボランティアが中心です。

いずれにしても、「なぜ?」を明確に持ち合わせていることを望みます。とくに、卒業研究に音楽を希望する場合は、早い段階から「楽典」（音楽理論）に触れておくことを希望します。

【面談について】

☆グーグル・フォームにて面談を申し込んでください。

〇本文に、①面談希望日時、②中間論文で扱うテーマと内容、③（現段階において）卒業研究で取り扱いたいテーマ、④「専願（第一希望）/併願（迷い中）/面談のみ;集団面接の可否」の別を入力してください。

※②と③については本音を書いてください。当ゼミのテーマ（言語・音楽など）に合わせる必要はありません。

マサゼミ面談





伊藤　裕子

20 号館 12 階　伊藤研究室

テーマ：　イギリスとヨーロッパを読み解く

イギリスやヨーロッパの多様なジャンルの読み物やフィクションを読んで、読解、分析のための鍵を学ぶと同時に、芸術、文化的背景をさまざまな角度から考察します。考察の対象は、映画、文学、劇、オペラ、ミュージカルなどです。

【授業の趣旨】
読む力、分析する力、論理的に考える力、そして考えをまとめ、書く力を養います。イギリス・ヨーロッパの芸術、文化、歴史、社会、生活等について、また映画と小説というメディアの違いを考察します。

【授業計画】
イギリス・ヨーロッパの文学、文化を主に扱い、時間軸、空間軸ともに異文化であるテクストを読み解いていきます。特に焦点を当てる 20 世紀初頭は 19 世紀ヴィクトリア朝の栄華の余韻と旧いものの考え方に固執しながらも、文化、斬新な芸術が生み出され、新しい精神性を持った人々がロンドン、パリなどの都市部を中心に活躍した興味深い時代です。英語に自信が無くても問題ありません。課外活動（成績評価に関係なし）として、ミュージカルなどの観劇、芸術鑑賞、音楽鑑賞を行います。

【成績評価】
各学期において中間レポートおよび期末レポートを課します。成績評価は、出席、授業での発言、プレゼンテーション、中間レポート、期末レポートにより総合的に評価します。演習Bにおける期末レポートでは、各自で選んだテーマについてレポートを課す予定です。

【教科書】
受講生の興味に応じて後日指定しますが、今のところ予定している作品は以下のとおりです。
『ドラキュラ』、『オーランドー』、『ハリー・ポッター』、『指輪物語』、『タイムマシン』、『シャーロック・ホームズ』、『ダウントン・アビー』、『トレインスポッティング』、シェイクスピア作品、『タイタニック』、その他。

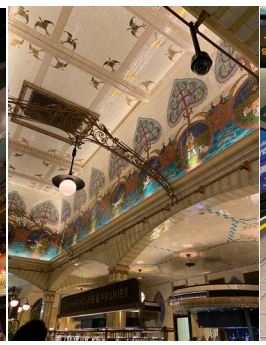
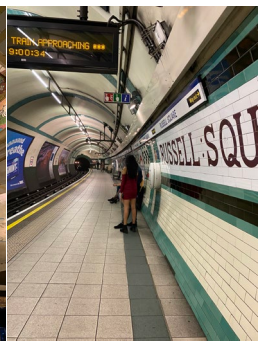
注意事項

授業無断欠席は認められない。面談の際、以下の事項について 200～400 字以内にまとめて提出のこと。Zoom 面談も可能です。面談時間帯であっても所用により不在の事がある。面談は、メール予約をした学生を優先する。

1）この演習を選んだ理由　2）この演習についての質問　3）卒論を目指して、現在関心のあるテーマについて
4）自己紹介（取得した資格、大学での活動、アピールしたいこと等）

ito@fsc.chubu.ac.jp



岩間 優希

20 号館 8 階　岩間研究室

ゼミの概要

学生それぞれが好きなトピックについて研究を深めることを主旨としています。社会学の範囲に入るものであれば指導可能です。

過去のゼミ生の研究テーマ例

岐阜のゆるキャラ／美容整形への認識の変化／飛騨高山の観光政策／政治家の失言比較／ウェブ炎上の理由／アニメに描かれる人種差別／ブラジリアン柔術の人気の理由／地下アイドル／漫画に見るリーダーシップ論／恋愛と身長／サッカーとメディア／歌詞の時代的変化／理想の職業観の変遷／ガイドブックに見るスペイン・イメージ…など

授業内容

3年生春学期

文献を読んで、内容について発表・ディスカッションすることを基軸とします。テキストとして何か一冊書籍を購入してもらう予定ですので、そのつもりでいてください。どの本にするかは、その年のメンバーの興味関心・学力・読書習慣などに応じて決定します。テキストが終わったら、それぞれに合った文献を課題として指定するので、それを読んで発表。

3年生秋学期

卒論のテーマを検討し、必要な文献を読んで発表。

＊岩間ゼミは共同研究や合宿などはありませんので、自分が興味のあるテーマの探究に時間を使いたい人に向いています。

こんな学生に来て欲しい

・基本、毎回出席する。メールは 48 時間以内に返信（ゼミ選考中だけじゃなくて卒業まで）。積極的に議論に参加できる。何かしてもらったらお礼を言える。

面談・選考について

① 面談希望者は必ずメールで予約を入れてください。
アドレス：y-iwama@fsc.chubu.ac.jp （yのあとは半角ハイフン）

② 予約メールでは希望日時を3つ以上、時間帯をなるべく幅広く教えてください。
記入例）第1希望　〇月〇日〇時～〇時、第2希望　〇月〇日〇時～〇時、第3希望　〇月〇日〇時～〇時

③ 3人以上の先生と面談をした後、岩間ゼミを第一希望とする人は、「第一希望とする理由」「ほかに面談を受けた先生のサインのページの写真」を添付してメールを送ってください（誰と面談したかは採否に影響しません。ちゃんと3人以上と面談したかどうかを確認するためのものです）。メールを送ってきた順は採否に影響します。

④ 採否は内定解禁日にメールにて連絡します。

その他

なるべく設定してある面談日に来て欲しいのですが、岩間ゼミにすごく興味を持っているにもかかわらずどうしても日程の都合がつかない場合は、相談してもらえれば別の日時で対応します。

于 小薇

20 号館 10 階　于研究室

テーマ:教育学的研究による日中社会の比較

【授業の主旨】

「一人っ子政策」は中国社会を理解するための重要なキーワードである。それが転換期を迎えた今、そしてこれから、中国社会をどのようなキーワードで概念化できるのだろうか。

1980 年代から継続された「一人っ子政策」が「二人っ子政策」、「三人子政策」への転換が完成した中国、18 歳人口が減少しつつある日本。ともに深刻な高齢化社会の問題を抱えている。当演習では、日本と中国にある共通の社会問題を見つめ、教育学的な観点からの比較分析を通して、隣人(国)同士の相互理解を深めることを目標としている。また、卒論を作成する際、中国語の文献を参考にする人へのサポートもする。

【授業計画・授業内容・一部の卒論テーマ】

春学期は、2 年生の応用演習で学んだ資料検索の方法やレポートの作成といった研究スキルを確実に身につけるよう、アカデミックリテラシーを高めつつ、中国の社会・教育問題に関する専門知識についても学習する。

秋学期は、卒論の執筆を視野に入れ、受講生それぞれが自分の研究発表を行う。発表者の発表内容を踏まえ、受講生同士で議論を行い、教員がコメントすることで、ゼミ生全員が卒業研究計画を立てることができるよう指導を進めていく。

最近の一部の卒論テーマ:「言語におけるジェンダー性」「学習指導要領から見る教育環境の変貌」「中国料理から見る食文化の多様性」「現代日本人の対中イメージの形成とマスメディア・SNS による影響の一考察」など。

【教科書】

特に指定はない。ただし、中国に関する専門知識の学術書について、最初の授業時に受講生各自の関心を考慮し、みんなで話し合って決めていく。基本的に日本語の文献を中心に学習を進めていくことなので、中国語の学習歴がなくても構わない。

【成績評価】

受講する態度が大切である。着実に努力する人は評価する。特別な理由がない限り、3 回以上欠席した人は評価の対象にならない。

【面談日時】

学生ポータル掲載の面談日程表の通りである。面談希望者は必ず事前にメールで予約を取ってください。于のメールアドレスは以下の通りである。

yuxiaowei@fsc.chubu.ac.jp

加々美 康彦

20 号館 7 階　加々美研究室

ゼミのテーマ「国際社会を法で読み解く」

① ゼミの趣旨・目的－（国際）法学のゼミです

1年で法学概論、2年で国際法をかじったあなたが、もう一歩先へ進むための科目です。ニュースでも歴史でも身近なできごとでも、気になったテーマを自分で選び、国内法・国際法のルールを手がかりに「事実 → ルール → 当てはめ → 反論 → 結論」の型で読み解きます。ねらいは、思いつきではなく筋の通った考え方 ＝ Legal Mind（法的思考）を身体化すること。学びながら、自分の関心を“法のことば”で語れるようになります。たぶん。

② こんなゼミです－研究発表、時々スポーツ

3年生は、例年12月開催の「名古屋国際関係合同ゼミナール」出場に向けたグループ研究を進めつつ、各自の個人研究も続けます。

4年生は、就活を優先しながら卒論を作成します。3・4年生合同で実施するので、毎週誰かが研究発表をして、皆で議論する感じです。

イベントとしては、毎年4月はじめに地裁見学と新入生歓迎会、学期中に1～2回のスポーツ大会を予定しています。その他のイベントは、ゼミ生の希望に応じて実施します。イベント出席は任意です。

ゼミの無断欠席は認めませんが、正当な理由があって事前に連絡のある欠席に対しては寛容です。

③ 募集方法－こんな学生をお待ちしています

法学概論・国際法を履修済または法律に関心のある学生で、12月に開催予定の「名古屋国際関係合同ゼミナール」出場に向けてグループで協力して勉強する意欲がある学生を募集します。

面談は期間中の月・火のお昼休み＋木は15時まで。
予約は不要ですが、急用で留守の時もあります。
Zoom面談可。他の時間帯希望なら事前連絡を。
メールでの質問も受け付けています。



ゼミ第18期生募集

加々美メルアド

ゼミ見学歓迎
毎週火曜日7/8限
20号館12階
大学院講義室2
（予約不要）

高 英求

20 号館 7 階　高研究室

テーマ：世界経済論ー「世界」という視野で考える

◆担当教員の研究分野：「人」と「経済」「歴史」「思想」 。「世界」という視点から。
・私の「専門」分野は経済学：（世界経済論・国際経済学・国際金融論・貨幣思想…）

◆ゼミで学ぶこと（「経済」にこだわらず、広く深く学ぶ）
・多様な関心をもつ人が集う学部なので、テーマについては、「経済」にこだわりません。ゼミ生と相談しながら、柔軟に考えます。人間・社会について広く深く考える本、時を経て読み継がれてきた本を読みます。
伸びやかに学ぶ喜びを味わえるゼミにしたいです。

◆対話を通じた深い学び
・対話を通じ、深く学ぶ姿勢が大事だと思うのです。決めつけず、しなやかに。感じることも大切に。
・「学問」のベースには、自他との「対話」がある。そして大学は、結論よりも、考え方（それも多様な）を学ぶ場だと思います。 互いを尊重し、様々な声に耳を傾け、語り合う。そこに、文系学部ならではの面白さ、ゼミの醍醐味があります。

◆勉強の内容：
・本の「読み方」を学ぶゼミにしましょう。大学は、一生学び続けるための土台を築くところです。
最初はゆっくり、とても初歩的なことから始めます。3年の終わり頃には、自分でもびっくりするほど、力がついているはず。学びも遊びと一緒で、真剣にやった方が面白い。深い喜びが得られます。

・3 年： みんなでテキストを読み、ディスカッション。レジュメ作成と報告。
過去のテキスト：（春学期）ケン・ベラー他『世界の平和をつくった 20 人』
（来年度は、網野善彦『日本の歴史を読み直す』が候補）
（秋学期）カント『永遠平和のために』、モンテスキュー『法の精神』、など
・4 年： 卒論がメイン （春学期は、何かテキストを決めて読むかも）

◆選考について
・計三人の教員と面談した後、このゼミを第一志望にする場合、高に「内定希望」メールをください。
（最初の面談の時は、不要です）
・「内定希望」メールには、下記のことを書いてください（できるだけたくさん）

①志望動機（ゼミで何を学びたい？ なぜこのゼミが第一希望？）
②自己紹介（自分の関心、好きなこと、がんばったこと［謙遜せずに］）
③その他何でも、書きたいことがあったら、どうぞ 書いて下さい。

◆面談： アポ（約束）がなくても大丈夫ですが、予約するのが確実です。
メールあて先：koh@fsc.chubu.ac.jp

澁谷　鎮明

20 号館 7 階　澁谷研究室

テーマ:東アジアの人と文化の交流

【授業の主旨】

「東アジア諸地域の人と文化の交流」をテーマとしています。現在の東アジアは観光流動や出稼ぎ、移住などの人的交流、あるいはサブカルチャーまでを含む文化交流が非常に盛んです。また歴史的にも様々な人と文化の交流が行われたことで、現在の社会や文化が形成されており、われわれが今いる日本も例外ではありません。

本演習では、このような視点を持って、韓国を中心としながら、中国・台湾までを含む東アジア諸地域の文化・社会について理解を深め、様々な局面での日本との交流について考察します。

上記のテーマに関して資料収集・報告・討議・レポート作成を行うことで、人文科学系の学生として身につけるべき資料検索・プレゼンテーション能力、文章力を身につけます。なお、ゼミでは簡単な韓国語文献資料や、韓国語映像を用いることがあるので、韓国語の学習経験が全くない場合、ゼミ参加が難しくなるかもしれません。

【授業計画】

春学期は、韓国を中心とした東アジアの諸地域に関する基礎知識、資料検索の方法などについて復習を行った後、教員の指示するテーマに沿って、各自担当を決めて資料調査を行い、発表を行います。昨年度のテーマは、「韓国を知るためのキーワード」「韓国社会・文化と関わる CM 映像分析」「韓国語の歌詞翻訳」を実施しました。

秋学期は、卒業論文について各自おおよそのテーマを決め、その基本的な事項について調査・報告してもらいます。なお、4 年生の卒業論文中間発表会があるので、必ず参加してください。またグループワークを行うこともあります。これまで、「東アジアの EC サイトの評価」を実施しました。

なお，受講生との相談の上ですが、上記のテーマに沿った海外や国内での研修や，学部学科の各種イベントへの参加について企画・実施する可能性が高いので、理解の上受講してください。

【成績の評価】

発表・討論への参加やゼミの場でのパフォーマンスで評価します。具体的には出席、発表におけるレジュメの完成度・プレゼンテーションの巧拙と、いかに積極的に討論に参加したかを評価基準としています。特別な理由なしの欠席を 3 回以上した場合、不合格とします。

面談に際しての注意事項

当演習の受講を希望する学生は、**①「なぜこの演習を希望するか」、②「自分が（今のところ）追究したい卒業研究のテーマ」**について準備してください。また、③ポートフォリオ資料など、自分がこれまでにやってきたことを示せるようにしてきてください。また④**韓国語の履修歴・学習歴、韓国語資格取得歴、韓国をはじめとした海外滞在・留学経験**などがあれば、必ず示してください。

面談の予約

アポ（予約）なしでも予定時間内であれば面談しますが、できれば事前に下記にメールを送ってください。「面談の時間が合わない」人も一度メール連絡を下さい。

sshibuya@fsc.chubu.ac.jp

宗 ティンティン

20 号館 8 階　宗研究室

テーマ:体験学習から学ぶ日中歴史文化の魅力

「授業の主旨・目的」

ゼミ内容:「なんでも深く研究すれば学問になる」。好奇心旺盛で日中の伝統芸能や歴史文化そして旅が大好きな学生を対象にしたい。場合によっては国内外での現地調査や文献調査も実施し、音楽人類学と歴史学の視点から歴史文化や民族地域に隠された多くの謎や文化暗号を学生と一緒に解読して行きたい。「体験学習」という手法を使いながら一人一人の個性を尊重しながらチームワークを作っていく。

目的:本演習では、文化人類学では最も重視する参与調査を実施しながら歴史資料研究或いは翻訳という手法で進める。論理的に語れる人間を育てることより、企画力と執行力そして柔軟的な思考を持つ国際社会に役に立つ人材を育てる事を目指している。

「授業計画」

演習 A は①紀元前から日中両国間どのような文化交流があったかについて中国社会科学院から出版された『日中文化交流史』の翻訳を通じて学習していく(翻訳アプリを使用)。②現地フィールドワークの一環としてチベット寺院「チャンバリン」を見学

演習 B では、①ゼミ学生がそれぞれ関心のあるテーマ(芸術・慣習・AI・体験など)を選び、要約やレジュメを作成する。演習では、担当者の発表後に全員で討論を行い、この発表を通して卒業論文のテーマを具体化していく。②日中文化交流の証として、「奈良正倉院展」および「平城宮跡」でのフィールドワークを実施し、事前の資料調査と現地調査の成果を発表する。③就職活動の際にアピールできる成果の一つとして、初心者でも受験可能な日本中国友好協会主催の「中国百科検定試験」を全員で受験する予定である。

これらの学習を通じて得られた知識・経験・データは、今後の就職活動や卒業論文の執筆において重要な糧となることが期待される。

「成績の評価方法と基準」

発表・討論への参加 30%、出席率 30%、現地フィールドワークの参加 40%で評価する。

ゼミ内での発表や討論、そして自らの参与調査に関する企画と参加などを評価基準とする。特別な理由がなく 3 回以上の欠席があると不合格になる。

「教科書」

特になし、その時に応じて参考資料を配布する。

「面接に際しての注意事項」

当演習の受講を希望する学生は面接の時**①どうしてこのゼミを希望するか？②自分が興味を持っている分野。③追求したい卒論のテーマなど、**面談の時、十分説明できるように準備してください。



★ **メールでの予約をお願いします。**

tingting@fsc.chubu.ac.jp

★ 一人 10 分～15 分の面談時間





財部　香枝

20 号館 9 階　財部研究室

専門分野：科学史（博物学史、気象学史）、科学技術社会論

テーマ：博物館は公衆と語り合う最前線（古臭くない！）

―ジェンダー、人種、環境、イノベーション

【授業の主旨・目的】

博物館は、収蔵品を並べているだけではなく、学芸員が、見る人に問いを投げかけ、ともに語り合う場でもあります。演習では、アメリカの博物館/展示をとおしてアメリカの社会文化を深く考察します。卒業研究のテーマは教員の専門に限定しませんが、教員による 2 年次の授業「北米から学ぶ」に関心を持っている、英語圏に関心を持っている、または、教員の研究フィールドであるワシントン DC のスミソニアン協会に関心を持っている学生が望ましいです。

アメリカの都市や田舎を歩くと、至る所で博物館に遭遇する。たとえばシカゴのオヘア国際空港ではフィールド自然史博物館の巨大なブラキオサウルス骨格標本が屹立する。博物館は非営利団体、営利団体、大学、あらゆるレベルの政府（連邦政府、州政府、市町村、郡など）によって運営されている。博物館は運営形態から内容まで、実に多様であり、気軽に出かけて知的冒険を楽しむ人気の場所となっている。博物館入館者は毎年約 8 億 5 千万人おり、これは、野球などのメジャーリーグ全てのスポーツ行事とテーマパークを合わせた入場者より多いほどである。アメリカ博物館協会によれば、博物館はまた、大学の研究者や教授を抑えて、もっとも信頼できる情報源としても認識されている。ものを見て世界の驚異に触れ、知識を増やすというアメリカの博物館文化は、見ることに対するアメリカの人々の思い入れの深さを物語る。自然史、人類学、科学技術、自然センター、樹木園・植物園、動物園、水族館、プラネタリウムなどの科学技術の博物館や科学センターについても、アメリカ人は他国の人より頻繁に行くとされる。（中略）2009 年にヒットした映画≪ナイト ミュージアム 2≫は、原題に≪Night at the Museum: Battle of the Smithsonian≫とあるように、スミソニアン協会が舞台となった（同シリーズ 1 作目の舞台はニューヨークのアメリカ自然史博物館）。

参考文献：

財部香枝「博物館」『アメリカ文化事典』丸善出版、2018：326–327.

財部香枝「スミソニアン協会による科学の可視化戦略：長官ウェイン・クラフの挑戦」『アリーナ』第 22 号、2019：483–94.

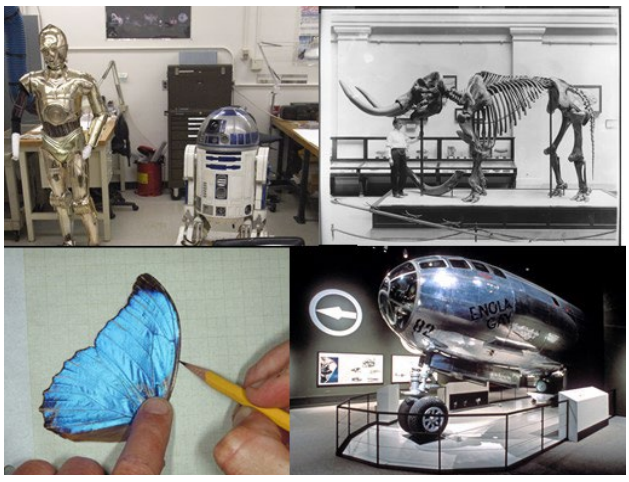
【授業計画】

20 以上の博物館・美術館、動物園および 9 箇所の研究所からなる、世界最大の博物館・研究所群であるスミソニアン協会（本部はアメリカ、ワシントン DC）の展示（歴代ファーストレディのガウン、ホープダイヤモンド、ティラノサウルス、火星探査機・・・）を題材に、何気なく見ている展示の背景にある社会文化を理解します。担当者の発表後、全員で討論します。要望があれば、実際に博物館を訪れる機会を持ちます。

【評価方法】 発表・討論への「参加」および課題の取り組みを、総合的に判断します。教科書は使用しません。

【面談に際しての注意事項】 メール予約は必要なし。20 号館 9 階研究室前の予約表に予約を記入しましょう。

【特別な場合の連絡先】takarabe@gs4e.chubu.ac.jp



中野　智章

20 号館 7 階　中野研究室

テーマ:「モノ」を通して、時代を生き抜く豊かな「想像力」と「創造力」を身につける

○３年生のうちから、自分のスキなことをテーマに選び、４年生の卒業論文へとつなげていくゼミです。

○クルマやファッション、食べものにマンガ、キラキラネームなど、色々なテーマを持った人たちが集まります。人間が創り出すさまざまなモノを通して、国際文化の過去・現在・未来を考えていきます。

○日本で考古学、英国でエジプト学を学び、前職は東京の古代オリエント博物館で学芸員をしていました。専門は古代エジプトですが、一つの文明を丸ごと研究するので、過去だけでなく、現代の文化にも非常に関心があります。

○ゼミ最大の特徴は３年４年の仲が良く、一緒に色々なモノを見に行ったり、体験したりすることです。勉強や就職、その他いろいろ、先輩から後輩へのアドバイスも豊富で、アットホームで充実した時間を過ごせるゼミです。







【どのような人に向いているゼミ？】

①「好奇心が強く、いろんなことに興味があり、ゼミの仲間からも学んで成長したいと考えている人」

②「授業ではカバーできない知識を共有したり、時には学外へ出て、みんなで体験したりすることを楽しめる人」

③「いろいろなテーマについて互いに意見を出し合うゼミのため、出席には自信がある人」

【就職先など】

毎回、色々なテーマでやり取りをするのが（いつの間にか）就職面接の良い予行練習にもなっている？ためか、銀行やホテル、商社、自動車、百貨店、空港、旅行、公務員、アパレル、イギリス留学後に世界的な企業に入った人など、結果として**「好きなことを思い切り研究してもらい、夢を叶えてもらう」**ことにつながっていると思います。

【面談に際しての注意事項】

来年度は学生数が多いため、最後の方になると面談希望者が増えて話す時間がなくなってしまい、ゼミに選ばれない可能性が高くなります。また今は役職担当のため、急な会議や打ち合わせが入ることもしばしばです。そのため、**興味がある人は早めに連絡をもらうと時間も取れ、ゼミに合うか合わないかも良く分かると思います。**まずは**希望の日時をいくつか記したメールをもらえれば、こちらからいつが良いか返信するので、**あなたのスキなことやゼミでやってみたいことを相談してみて下さい。tnakano@fsc.chubu.ac.jp

中山 紀子

20 号館 12 階　中山研究室

テーマ:文化人類学

【授業の主旨】

　これまで当たり前のことだと思ってきた様々な考えをもういちど見直してみる。この「既存の概念の相対化」は学問の初めであり、文化人類学はこの目標に向いていると考える。文化人類学が扱うテーマは、誰でもが行っている何気ないありふれた日常生活のことから外国の「不思議な」習慣まで多岐にわたる。具体的には、家族，結婚，性差，ライフスタイル，通過儀礼，交換，宗教，死などがある。現在担当者の中山の関心は、トルコ、イスラーム、女性、近代化、宗教、自然崇拝、イラン、中央アジア、アレヴィー、ヒズル信仰、スーフィズム、性教育などであるが、受講生はこれらにこだわる必要はない。多様な、身近な関心を持って受講してかまわない。中山が担当した 1 年次の授業「文化人類学入門」に関心をもった学生が望ましい。

【授業計画】

　この文化人類学ゼミで重要なのは、多岐にわたるテーマそれぞれを緻密に学習していくというよりは、自分のテーマに各自がどのように向き合うかである。「既存の概念の相対化」という文化人類学の基本的な態度を学んで欲しい。授業は以下のようなことを考えている。

① 春学期は、文化人類学の入門書等を使って各自の関心を確認する。
② 秋学期は、受講者全員が各自興味のあるテーマについて発表する。また、卒業論文作成に向けて、興味あるテーマの文献探索の方法、読書カードによる文献解読などの学習を行う。≈
③ 秋学期のおわりに卒論についての文章を書いてもらう。卒業１年前に長文を書く練習をすることで自分の言いたいことを人に伝える技術を磨く。

　授業であつかう題材は当面は教科書に沿うが、適宜参加する学生が提案してもかまわない。題材は文献とは限らず視聴覚資料や新聞・雑誌などの場合もある。

【成績の評価方法】

　何よりも授業に対する積極性によって評価する。議論を活発にするために、どんな内容でも自分の素直な意見を率直に言えることが重要である。当演習の理想は「踊るさんま御殿」である。あるお題（テーマ）に対して、自分のエピソード（意見）を語れること、そして、他人のエピソード（意見）につっこみ（コメント）を言えること。つまり、この演習の当面の目標は、活発な議論ができるようになることである。どのようなことでも学問となりうる。それを実感してもらいたい。議論で大いに発言し、議論の題材を自ら提案するなど積極的な態度の学生を高く評価する。

【教科書】

　受講生の関心に基づいて準備する。

【面談に際しての注意事項】

　ゼミ面談を希望する学生は、「1. なぜこの演習を希望するか」「2. どういうテーマに興味があるか」などについて文章を書いて持参してほしい（形式自由）。質問があれば、次のアドレスに問い合わせてください。

中山のアドレス: nuriye64＠fsc.chubu.ac.jp

　面接は集団で行うこともあります。また会議等で面談時間が変更になる場合は研究室のドアに貼っておきます。

羽後 静子

20 号館 7 階　羽後研究室

本演習のテーマとキーワード：国際政治経済学、人間の安全保障、地球環境・ESD(持続可能な発展のための教育)、グローバルとローカル、移民・難民、テロリズム、ジェンダー。

社会的弱者、差別される側（女性差別、在日、部落など日本のマイノリティグループへの歴史的構造的差別、外国人労働者、留学生、就学生への人種差別）の視点に立って国際関係が理解できるように、批判的に国際政治経済関係を見る眼と考える力を養う。理論的には、批判的国際政治経済学の理論的根拠である、イタリアの政治思想家アントニオ・グラムシの考え方を学ぶ。また実践においては、将来広い意味において社会で役に立つ人間になるよう、ゼミ有志で地域のNGO活動やボランティア活動に参加し、海外研修や国際会議に参加したりする。

国際社会で活躍するための基礎的な能力（人脈のつくりかた、企業、行政との付き合い方や交渉の仕方、企画書の書き方、外部資金の取り方、留学、海外インターンなど）、実践力、実行力が身につくようにもしたい。

ゼミの目標

このゼミでめざすことは、核や軍事力による国際政治経済構造、権力体制に対して批判的な「ものの見方」を確立し、平和な世界を描き、平和な世界を築くための理論武装を実行・実践することです。卒論や研究テーマは、上記にあげたテーマ・キーワードに沿ったものであれば何でもOKです。現在学生たちが取り組んでいるテーマは、テロリズムや環境・食糧安全保障など国際政治経済関係、ヒップホップやハードロックなどの音楽、サッカー、アテネオリンピックなどのスポーツ、シャネルなどのグローバルブランドファッション、家族関係、留学生、就学生、県内の外国人労働者など日常の自分に関心のあることを手がかりにして、自分の関心を深めて研究しています。

授業方針：

ゼミ活動として大学内や中部地域在住の外国人、NGO，企業人と議論や、料理、音楽などを通じての国際･文化交流も機会があれば積極的に取り入れます。

本ゼミに向いている人：

積極的でアクティブな生き方をしたい、グローバルでもローカルでも、どちらでも仕事ができて、世界でも地域でも活躍できる、他人のために役に立つ人間になりたい、平和で持続可能な世界を考えたい、海外体験やNGO活動、ボランティア、地域貢献など好奇心旺盛で元気な学生を求めます。

以下に面接予約のメールをください。

hanochi@fsc.chubu.ac.jp

平井　芽阿里

20 号館 7 階　平井研究室

「大学で学問を学び、幸せな人生を生きよう」

授業目的・到達目標

平井ゼミでは学問を通して俯瞰的に物事を考えられるような視点を獲得することで、卒業後も各々が「幸せな人生」を歩めるような力を身につけることを到達目的とします。

担当教員について

担当教員の専門分野は民俗学、文化人類学で、主な調査地は沖縄県（宮古島）を中心とした日本と韓国です。卒業研究のテーマは教員の専門に沿ったものでなくても構いません。基本的には自由です。

過去の卒論テーマ

サウナ文化の多様性／ペットと動物供養／『ジョジョの奇妙な冒険』・『HUNTER×HUNTER』に見る生霊と守護霊／SNS の可愛いお守り／『となりのトトロ』に見るアニミズム／女人禁制と現代日本の差別／茶摘み娘の労働／骸骨の聖母サンタ・ムエルテ／在日韓国系日本人のアイデンティティ／『鬼滅の刃』と韓国のトッケビの比較／韓国の胎夢と日本の夢占い／メディアに見る心霊写真の変遷／『呪術廻戦』の呪言師にみる言霊と忌み言葉／花火の意義・・など

授業計画

① 3年春学期は民俗学か文化人類学のテキストで各自レジュメを作成、発表し、話す、書く、読む力をつける
② 3年秋学期にはグループワークを行うことで、話す、考える力をつける
③ 3年12月に卒論テーマを決定・発表し、卒論の執筆に取り組む
＊例年、学生の希望で読んだ本の展示会、神社の清掃ボランティア等を開催
＊毎年6月に3・4年生合同の卒論中間発表会、1 月に卒論完成発表会




こんな人に来て欲しい

自分を変えたい人にはぴったりのゼミですが、私は種を蒔くだけなので、耕すのは皆さん自身です。
次のような学生に来て欲しいです。
・やる気、熱意、情熱、積極性、目的意識などがある
・挨拶やメールを返すなどの基本的なコミュニケーションが取れる
・他のゼミ生との関わりやチームワークを大切にできる
・約束や締切を守る、借りたものを返すなど、マナーや常識や礼儀がある
・「フィールドワーク論」か「生活環境と人間」を受講し当該分野に関心を持っている
なお、3回以上の欠席は単位取得が厳しいです。




面談について

＊事前にメールで予約を取る。（himeari@fsc.chubu.ac.jp）
＊件名に「ゼミ面談希望（学籍番号・氏名）」と書く。
＊本文に①面談希望日時（第3希望まで）、②なぜこのゼミを志望するのか、
③詳しい自己紹介、④興味のあるテーマ、
⑤（本紙に書いてあること以外の）質問、を書く。
＊平井ゼミを第一希望とする人は3人の教員と面談終了後、
メールで早めに知らせてください。
＊内定の結果は内定解禁日にメールでお伝えします。
＊平井ゼミにかなり興味があるのに、どうしても日程の都合がつかない人は相談してください。



ニコラス ペーテルス

20 号館 5 階　ペーテルス研究室

テーマ:国際政治学・国際政治史

授業の主旨・目的

このゼミでは、「歴史を通して今を理解し、世界の動きを自分の言葉で語られるようになる」ことを目指します。国家間の外交関係を軸に、国際機構・企業・NGO・メディア・個人など、国家以外の多様なアクターにも焦点を当て、国際社会の構造や変化を多面的・多角的に考察していきます。

分析にあたっては、特に歴史的アポローチを重視します。過去の出来事を単なる年表として学ぶのではなく、「なぜ」「どのように」「どんな影響を与えたのか」を自ら考え、因果関係を論理的に紐解くことを目指します。

このように、国際政治の背後にある外交の駆け引き、政策形成の過程、そしてそれに関わる人々の思惑や選択に興味がある人を歓迎します。また、国際社会を歴史から読み解き、自分の視点を育てたい人にも向いています。

ゼミは、英語と日本語の両方で行いますが、参加・発表・卒業論文は日本語で構いません。The seminar will be conducted in both Japanese and English. Students are expected to have a sufficient level of English to follow discussions and receive guidance, but participation and thesis writing in Japanese are fully acceptable.

担当教員

担当教員の専門分野は国際政治史/外交史であり、日本・ヨーロッパ・アメリカなどの外交文書を分析し、歴史を再構成・再評価する研究を行っています。**外交のダイナミズムを歴史的視点から検証することを目指しています。**

授業計画

3年春学期は、卒業論文作成の基本を見直しながら、各ゼミ生の関心分野を整理し、研究テーマを深めていきます。3年秋学期は、卒業論文の方向性を固め、執筆も開始します。このほか、グループワークや学生からの提案を取り入れながら、ゼミを進めていきます。

成績の評価方法

ゼミは、受け身ではなく「共に創る」場です。報告・プレゼン・討論などにおける積極的な参加を最も重視します。また、他の学生の研究に耳を傾け、建設的に意見を交わす姿勢も求められます。

教材

学生の関心とテーマに応じて随時指定します。Please note that also English-language materials such as official documents, news reports, articles, book excerpts, and audiovisual sources may be used.

面談に関して

本ゼミを希望する学生は、以下の要領で必ずメールで面談を予約してください:nicholas.peeters@fsc.chubu.ac.jp .

件名:「ゼミ面談希望(氏名・学籍番号)」 ＋ 本文に以下の内容をできるだけ具体的に書いてください:

①「ゼミを希望する理由」
②「興味・関心があるテーマ」
③「ゼミで取り組みたいこと」
④「冊子の面談日程に沿って、複数の面談希望日時」

羅　立新

20 号館 12 階　羅研究室

- **激動の世界を読む（ビジネス、公共政策、行財政、環境問題などの勉強を一つのきっかけとして）**

国際情勢は今複雑さと不確実性が増している。将来、世界の舞台で羽ばたいていくために、ダイナミックに変化している世界を読み、分析、予測していける能力を身につけよう。

卒論テーマの設定について：指導可能であれば、ジャンル、フィールドを問わない。

- **ゼミの目指す能力**：

♪ 国際的教養、適応力、語学力　　♪ 人間力、思考力、コミュニケーション能力、持続力
♪ 専門力、洞察力、論理力、分析力、判断力、行動力、実践力、協働力、リーダーシップ

- **教育方針とゼミの研究活動：「千里の行」**　**万巻の書を読む　万里の道を歩く　知行合一**

2500 年前の中国賢者の**老子**は「合抱之木，生於毫末；九層之臺，起於累土；千里之行，始於足下」（**合抱の木も毫末より生え、九層の台も累土より起こり、千里の行も足下に始まる**）との言葉がある。この「**千里の行**」はゼミの合言葉としたい。ゼミ生はそれぞれの才能を生かしながら大きく成長し、世界に大きく羽ばたいていくために、まずその基礎を固めることが必要で、それを実現するためには、ゼミ生の自主性を発揮し、知識の蓄積と同時に、海外フィールドワーク研修調査、研修交流などの活動が行われてきた。

できるだけそれぞれの特長、性格に合わせ、ゼミ生は自分の才能を発見することを手助けし、目標を実現するための力を伸ばすよう全力にサポートしていきたい。どんな時代でも、どこにいてもがんばっていけるという自信と強い精神力を持ってもらえるように、みなさんと一緒に協力し合い、真剣に取り込んでいきたい。

本演習は**二本柱で**取り込んでいく。

その一、卒業研究はゼミ生の関心の高い内容を中心に、それぞれの興味ある対象を見極め、全体像をつかむため、疑問を掘り下げ、学際的、複眼的な視点から取り込み、読書、討論、議論を通して、みなさんの論理的思考力、分析力、洞察力を高め、良い卒論を完成することを目標としたい。データ収集、分析のノウハウも身に着けてもらう。

そのニ、キャリア担当で就職相談、就活指導、ディスカッション、プレゼンの訓練などの就職サポートを積極的にする。

担当教員のネットワークを用いて、

ゼミ生の学内外での国際経験、社会経験など諸活動についてバックアップ、支援する

- **これまでの卒論テーマ例**

水問題とウォーター・ビジネス／プロ野球ビジネス／時代と共に生きるロックミュージック／ウクライナ「避難民」の受け入れ
愛知県の地域医療の課題と展望／盲人支援の歴史と在り方／生物多様性の意義／ MBTI タイプと対人関係の形成維持
世界の裏側を飢えさせる世界経済からの脱却／TPPをめぐって日本の医療の将来／外国人労働者問題の実態と法制度
スポーツと人種差別／ツイッターの社会的影響／捕鯨問題を考える／ CASE 革命で激変する自動車業界／林業復興の道
女性の労働力を低下させる非正規の壁／災害時における地域福祉活動の課題／日本を脅かさす自殺の現状と対策
NBA のグローバル戦略／日本における労働力不足問題／アジア経済統合の道／パンデミックとキャッシュレス社会
アパレル廃棄の闇／原発事故後の日本のエネルギー政策／日本のエコカーにおける国際戦略と課題／日本のライドシェア
何故アメリカは銃を手放すことができないのか／介護する側から介護される側の視点への転換／ MMT 理論について
ファストファッションが及ぼす影響／なぜ若者がテロリストに惹きつけられるのか／日本の空き家問題／労働組合のあり方
プラスチックごみ問題とバイオプラスチック／北欧の幸福度はどこから来るのか／イギリスの排出量取引に関する考察
大麻をめぐる国際的動向／日本のスポーツ助成金についての分析／アメリカの黒人差別問題と産獄複合体の深層

- **ゼミ生に望むこと：**

♪ 積極性、主体性　♪ やるなら（体の許す範囲で）ベストを尽くすこと。最後までやり遂げること。
♪ 時間の概念を持つこと。♪ 約束を守ること。♪ チャレンジ精神　♪ よく考えて、互い議論すること。
♪ 友情：ゼミ生仲間を大切にし、互い切磋琢磨、助け合い、ともに進歩していくこと。

- **面談に際しての注意事項**：

➢ まず面談希望日時を複数伝え、メールかラインでアポを取ってください。E-mail：cu11217@fsc.chubu.ac.jp
➢ 送られるアンケートファイルを記入。メールで返信か面談時持参するように。
➢ 主な面談可能な時間帯：月曜日13:00~17:00　火曜日16:50~18:00　木曜日15:20~17:00　金曜日13:00~16:00
できるだけ柔軟に対応するので、相談がある場合は気軽にメールかラインで連絡ください。

和田　知久

20 号館 7 階　和田研究室

テーマ:東アジア、中国語圏の社会と文化を文字・映像などから考察する

【授業の主旨・目標】

本演習では中国・台湾のみならず、**東アジア地域**、中国語話者の居住する広義の**中国語圏の文学、映画、ドラマ、写真、ファッション、流行音楽、アニメなどを通して、それを産み出した社会と文化について考えます**。また、テーマの発見、資料の読解、調査と分析、報告といった研究スキルを実践的に復習し、卒業論文の執筆に備えます。

また、**中国語のさらなるスキルアップをはかり、中国語で学ぶことに熱く挑戦したい人**もお待ちしています。可能な限りサポートします。でも、中国語の学習歴がなくても全然構いませんよ。

【授業計画・方針】

春学期には、東アジア地域、中国語圏の現代文化についての概説書やブックガイド、文芸作品などを輪読して、文化や社会について幅広く知識を増やしていきましょう。その中で自分の関心が持てるテーマを絞っていきます。

秋学期には、自らが選んだテーマについて発表し、参加者どうしで議論を重ね、より深く理解し考えて行きましょう。そして、卒業研究のために計画を立て、必要な作業を進められるよう指導します。

【教科書・参考文献】

受講者の要望や必要に応じて指定します。最近では、岡本隆司『中国の論理』(中公新書、2016)、大東和重『台湾の歴史と文化』(中公新書、2020)、呉明益『歩道橋の魔術師』(河出文庫、2021)を読みました。

【こんな人、お待ちしています】

・**資料(文字／映像ほか)に触れるのが好きな人**／他の受講生とともに**積極的にゼミの活動に関われる人**

【最近の卒業研究のテーマから】

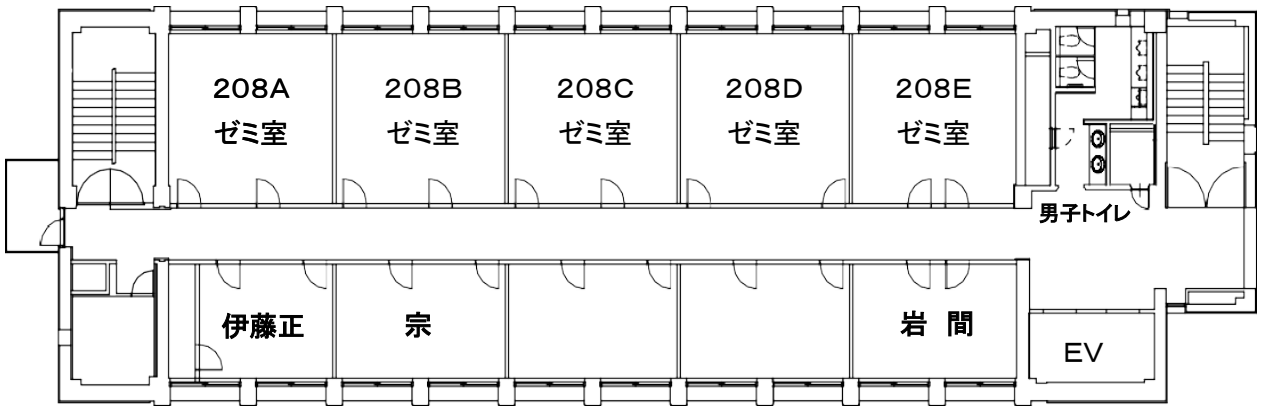
・非行に至る心理的要因と支援の可能性—『いぬやしき』獅子神皓の行動を通して考察する—
・『ワンピース』におけるジェンダーと多様性
・映画『ハリー・ポッター』に対するイギリスの宗教文化の影響について
・中国ドラマにおける「抗日神劇」の意義と課題
・ボディビルダーの自伝を読む
・犬食文化の現状と歴史　—犬肉が反対される原因
・伝統的祭礼の継承に関する考察　—長浜曳山祭りを題材に
・雑誌『JREA』から読み解く日本と中国の鉄道の関係性
・トレンドカラーとは何か　—歴史・決定・普及
・『ちいかわ』はなぜ人の心に「刺さる」のか

面談希望者はここから

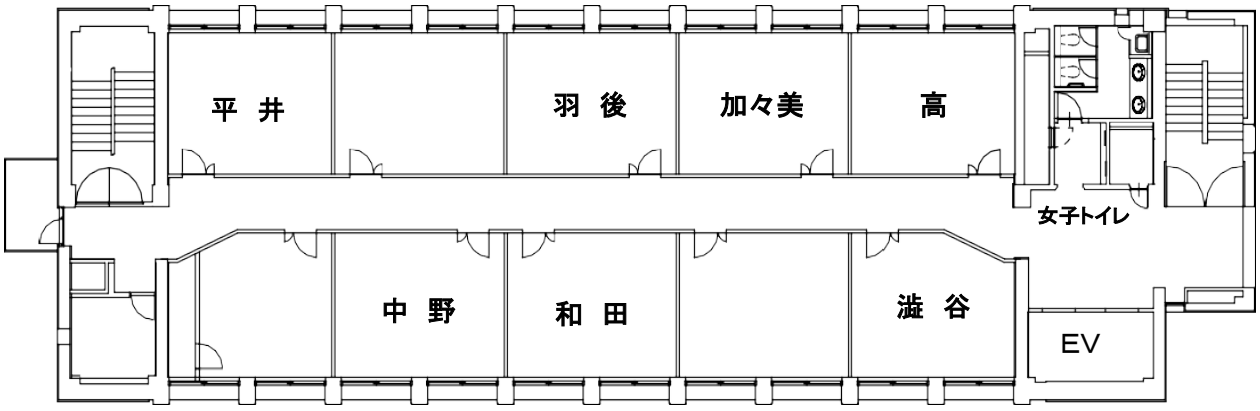
【面談希望者へのお願い】

・**基本的に対面で面談**します。**面談希望者は必ずメール**〔twada@fsc.chubu.ac.jp〕**にて予約を取ってください**。遅くとも 24 時間以内には返信いたします。
・メール本文には、以下の項目について記入してください。
①学籍番号＋氏名、②面談希望日時、③本ゼミ志望の理由(400字以内)、④ゼミで取り組んでみたいこと(400字以内)、⑤その他(Zoom面談、1対1の面談を希望する場合など)

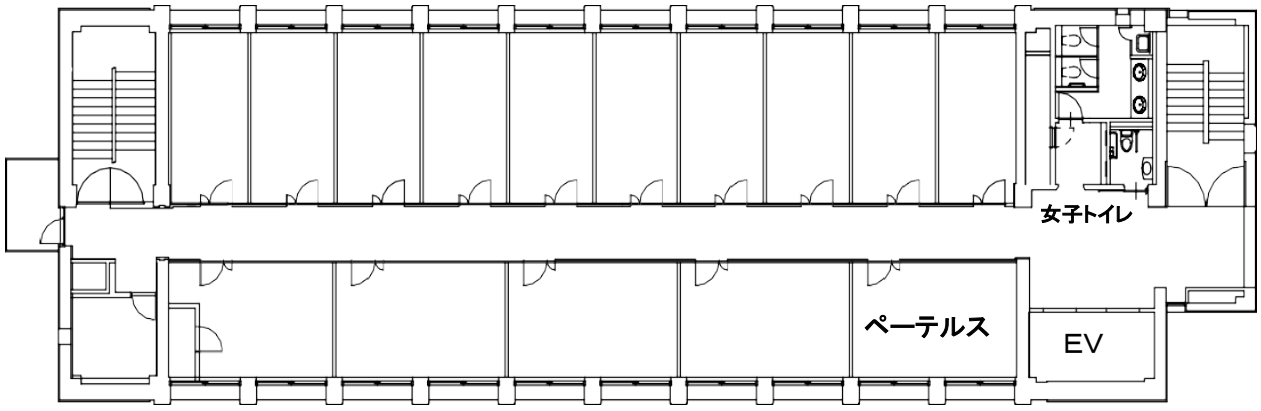
国際専門演習A・B担当教員の研究室



8 階

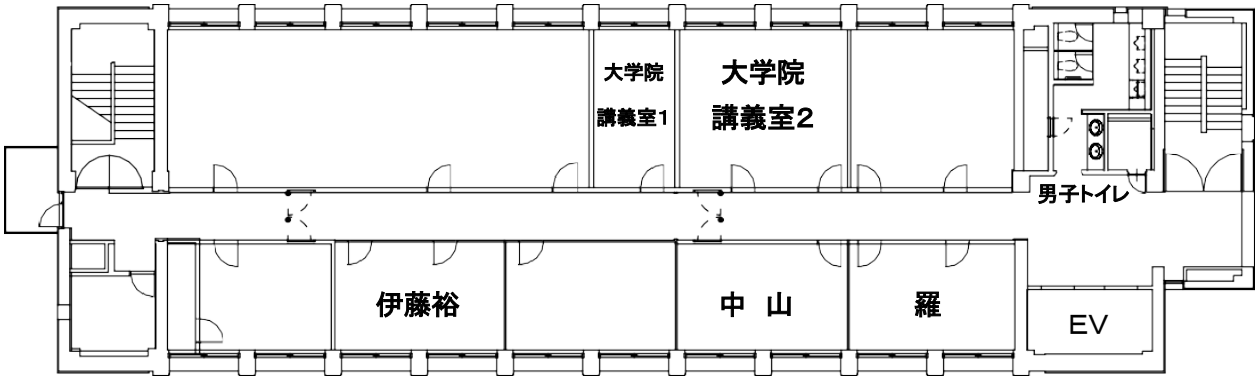


7 階

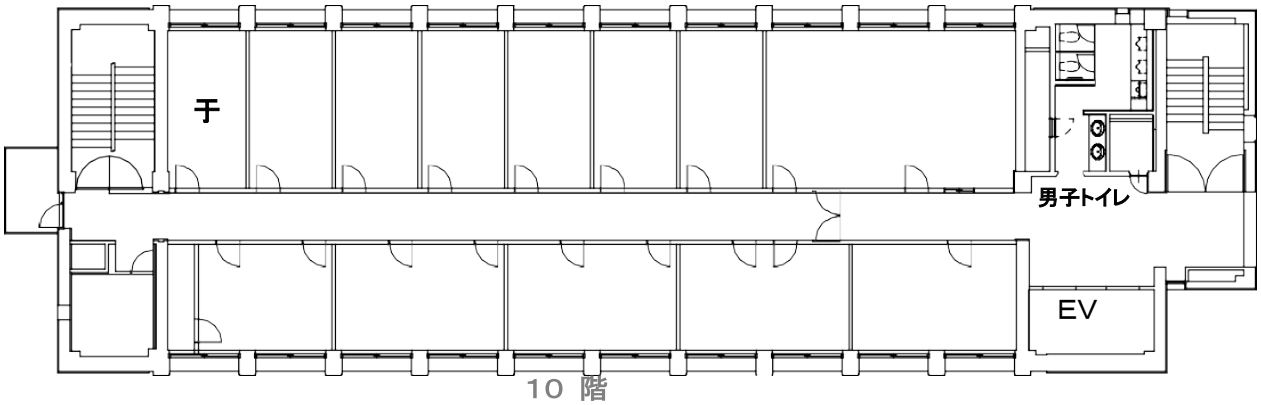


5 階

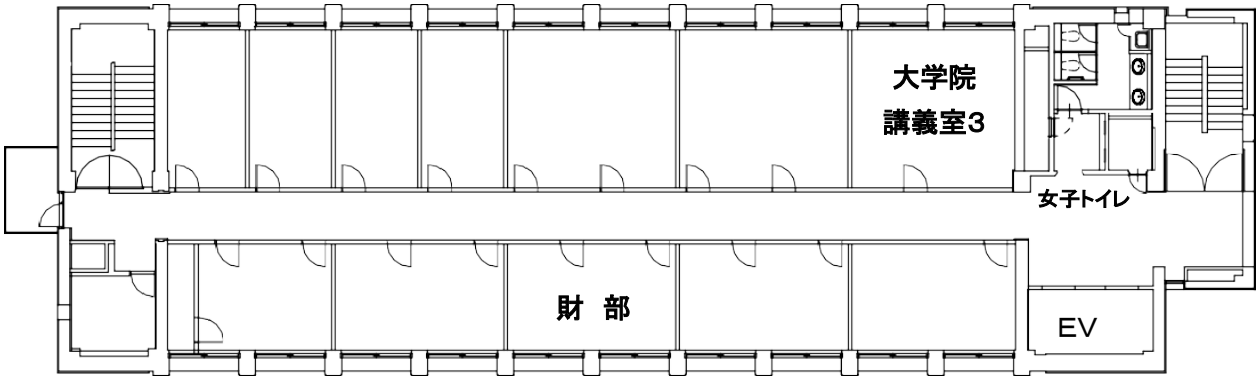
２０号館



12 階



10 階



9 階

２０号館

面談日程表

（場所：特に記載がない場合は、研究室）

※敬称略	月 11/9 面談開始	火 10	水 11	木 12	金 13
伊藤正晃	(伊藤正晃)10:00-19:00	(伊藤正晃)17:00-19:00		(伊藤正晃)17:00-19:00	(伊藤正晃)10:00-19:00
伊藤裕子	(伊藤裕子)16:00-17:30	(伊藤裕子)13:00-16:00	(伊藤裕子)13:00-14:00		
岩間			(岩間)11:00-11:30、15:30-17:30		
于	(于)15:00-17:00 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】		(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	
加々美	(加々美)12:30-13:30	(加々美)12:30-13:30		(加々美)12:30-15:00	
高		(高)12:00-13:20	(高)12:30-13:30	(高)13:00-13:30	(高)13:00-13:30
澁谷	(澁谷)14:00-17:00		(澁谷)14:00-17:00		(澁谷)13:30-17:00
宗		(宗)15:00-18:00	(宗)13:00-13:30	(宗)13:00-14:00	(宗)12:00-13:20、15:20-18:00
財部	(財部)12:40-13:20	(財部)15:30-16:30	(財部)12:40-15:00	(財部)12:40-13:20	(財部)12:40-13:20
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること →				
中山	(中山)12:30-14:00	(中山)14:30-16:00	(中山)10:30-12:00		(中山)13:00-15:30
羽後		(羽後)13:00-13:30	(羽後)13:00-13:30	(羽後)16:20-17:10	
平井		(平井)10:00-11:30	(平井)10:00-11:30		
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-15:30	(ペーテルス)12:50-13:30			
羅	(羅)13:00-17:00 【20号館12階大学院講義室2】	(羅)16:50-18:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】		(羅)15:20-17:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室2】
和田		(和田)15:30-18:00		(和田)17:00-18:00	(和田)17:00-18:00

※敬称略	16	17	18	19	20
伊藤正晃	(伊藤正晃)10:00-19:00	(伊藤正晃)17:00-19:00		(伊藤正晃)17:00-19:00	(伊藤正晃)10:00-19:00
伊藤裕子			(伊藤裕子)13:00-14:00	(伊藤裕子)17:00-17:30	(伊藤裕子)13:00-14:30
岩間			(岩間)11:00-11:30		
于	(于)15:00-17:00 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】		(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	
加々美	(加々美)12:30-13:30	(加々美)12:30-13:30		(加々美)12:30-15:00	
高		(高)12:30-13:20	(高)12:30-13:30	(高)13:00-13:30	
澁谷			(澁谷)14:00-15:00		(澁谷)13:30-17:00
宗		(宗)14:00-17:30	(宗)13:00-13:30	(宗)13:00-14:00	
財部		(財部)15:30-16:30	(財部)12:40-13:20	(財部)12:40-13:20	(財部)12:40-13:20
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること →				
中山	(中山)12:30-14:00	(中山)14:30-16:00			(中山)13:00-15:30
羽後	(羽後)16:00-17:10	(羽後)13:00-13:30	(羽後)13:00-13:30	(羽後)16:20-17:10	
平井		(平井)10:00-11:30	(平井)10:00-11:30		
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-15:30	(ペーテルス)12:50-13:30			
羅	(羅)13:00-17:00 【20号館12階大学院講義室2】	(羅)16:50-18:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】		(羅)15:20-17:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室2】
和田		(和田)15:30-18:00		(和田)17:00-18:00	(和田)17:00-18:00

面談日程表

（場所：特に記載がない場合は、研究室）

※敬称略	月	火	水	木	金
	23 勤労感謝の日(祝日の授業日) **内定解禁日**	**24**	**25**	**26**	**27**
伊藤正晃		(伊藤正晃)17:00-19:00	(伊藤正晃)17:00-19:00	(伊藤正晃)17:00-19:00	(伊藤正晃)17:00-19:00
伊藤裕子	(伊藤裕子)15:30-17:30			(伊藤裕子)17:00-17:30	(伊藤裕子)13:00-16:00
岩間			(岩間)11:00-11:30、15:30-17:30		
于	(于)15:00-17:00 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】		(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	
加々美	(加々美)12:30-13:30	(加々美)12:30-13:30		(加々美)12:30-15:00	
高		(高)12:30-13:20		(高)13:00-13:30	(高)13:00-13:30
澁谷	(澁谷)14:00-17:00		(澁谷)14:00-16:30		(澁谷)13:30-17:00
宗		(宗)15:00-18:00	(宗)17:00-18:00	(宗)12:00-13:20	
財部	(財部)12:40-13:20	(財部)15:30-16:30	(財部)12:40-13:20	(財部)12:40-13:20	(財部)12:40-13:20
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること →				
中山	(中山)12:30-14:00	(中山)14:30-16:00	(中山)10:30-12:00		(中山)13:00-15:30
羽後	(羽後)13:00-13:30				
平井		(平井)10:00-11:30	(平井)10:00-11:30,15:30-16:30		
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-15:30	(ペーテルス)12:50-13:30			
羅	(羅)13:00-17:00 【20号館12階大学院講義室2】	(羅)16:50-18:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】		(羅)15:20-17:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室2】
和田		(和田)15:30-18:00		(和田)17:00-18:00	(和田)17:00-18:00

※敬称略	**30**	**12/1**	**2**	**3**	**4 提出期限 16:00まで**
伊藤正晃					
伊藤裕子	(伊藤裕子)15:30-17:30		(伊藤裕子)13:00-14:00		(伊藤裕子)13:00-15:00
岩間			(岩間)11:00-11:30、15:30-17:30		
于	(于)15:00-17:00 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】		(于)17:00-17:30 【20号館1階 Glocal Forest Lounge】	
加々美		(加々美)12:30-13:30		(加々美)12:30-15:00	
高		(高)13:00-13:20		(高)13:00-13:30	
澁谷	(澁谷)14:00-17:00		(澁谷)14:00-17:00		
宗		(宗)13:00-18:00	(宗)12:45-13:30		
財部					
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること →				(中野)-15:00 →
中山		(中山)14:30-16:00			
羽後					
平井					
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-15:30	(ペーテルス)12:50-13:30			
羅	(羅)13:00-17:00 【20号館12階大学院講義室2】	(羅)16:50-18:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】	(羅)15:20-16:30 【20号館12階大学院講義室2】	(羅)15:20-17:00 【20号館1階Glocal Forest Lounge】	
和田	(和田)17:00-18:00	(和田)15:30-18:00		(和田)17:00-18:00	

国際関係学部　２０２７年度ゼミ希望票

2027年度
国際専門演習
A･Bゼミ説明会

最後にこの用紙を、「12月4日（金）16時」までに、国際関係学部事務室に提出すること
（コピー、スマホの写真などで、控えをとっておくこと）

【学籍番号】	ＮＡ
【名　　前】	

■面接した教員氏名【３人以上！】（対面なら教員が、オンラインなら学生が記入）

面接日	教員氏名	面接方式	面接日	教員氏名	面接方式
		対面・オンライン			対面・オンライン
		対面・オンライン			対面・オンライン
		対面・オンライン			対面・オンライン

■内定のサイン（教員が記入）　←忘れずに教員に頼んで書いてもらおう　★教員は日付も記入

日付	月　日	氏名	

■希望するゼミ（学生が記入）

希望順位	希望するゼミの教員名
１	（内定をもらった場合、そのゼミ名）
２	
３	
４	
５	
６	
７	
８	
９	
１０	

〇内定をもらっている人（上の「内定のサイン」がある人）は、「第１希望」だけでよい。
〇内定をもらっていない人は、第１希望のゼミに入れないかもしれない。その場合、調整の必要があるので、念のために第 10 志望まで書くこと（書かないと、まったく希望しない教員のゼミに配属される可能性がある）。

■連絡先　（ゼミ選考で連絡が必要な場合のために。それ以外の目的には使いません。）

携 帯 電 話	
携帯メール	

受付印

ゼミに関する重要なこと

ゼミ（「国際専門演習 A･B」「卒業研究」）は、一人の教員のもとで少人数のゼミ生が 2 年間にわたって学ぶ、必修単位の授業です。たいへんやりがいのある、文科系の学部の大きな柱ともいえるものです。

ただし、教員とゼミ生が固定されるため、下手をすると密室的になりかねず、トラブルが起こる可能性もあります。ゼミ運営に関して、教員には細心の注意・配慮が求められます。

もし、ゼミに関して困ったことがあったら、どうぞご相談ください。ゼミの教員に直接言いにくいときは、相談しやすい教員や事務室の方に話をしてみてください。

基本的に、一度選んだら、ゼミを変更することはできませんが、やむをえない事情があると判断される場合は、所属ゼミを変更することも考慮します。ただし、その場合、希望するゼミに移れるかどうかは分からない、ということはご承知おきください。

２０２６年１１月

国際関係学部長　　中野　智章

国際学科主任　　和田　知久